

雷は雲と地面、または雲と雲の間に起きる放電現象です。

夏季の入道雲や寒冷前線の近く、低気圧や台風の域内等で発生する積乱雲で起き、冬季に発生数の多い日本海沿岸を除けば、沿岸部・内陸とも暖湿な空気に覆われる夏季の発生が多くなっています。

前線近くや低気圧でできる積乱雲は、雲域が組織化し長時間激しい雨を伴うことも多く、土砂災害や浸水害にも注意しなくてはなりません。

日本における落雷被害をみてみますと、まず人的被害は年平均で20人となっており、そのうち70%が亡くなっています。建物や機器類の物的被害の年間被害総額は、損保会社の調査によると1千億から2千億程と推定されていて、件数は軽く2万件を超えるそうです。また、四方を海に囲まれた湿度の高い日本では考えにくい事ですが、広大な山林が広がる北米大陸等では、乾燥期に落雷による大規模な山林火災が発生することも知られています。

人的物的被害をもたらす雷ですが、そのもとである積乱雲は、また竜巻の発生原因でもあります。気象庁はこれら現象の発生に備えるため、降水ナウキャストにくわえ雷ナウキャスト、竜巻発生ナウキャストといった1時間先までの予想情報を発表しています。また、外出時に備えるための情報として、天気予報で「雷」の表示がある時や、TVの気象情報で「大気の状態が不安定」といった言葉が使われている場合は、たとえ出かける前は晴れていても、天気が急変し積乱雲がもくもくと発達する可能性が高い状況です。このキーワードには十分な注意が必要です。

もし外出先で雷や雷雨に遭遇した場合は、ビルや駅等の頑丈な建物に避難するのが安全です。屋外で大木等に雨宿りするのは、木に雷が直撃した際、側撃雷の恐れがあり非常に危険です。

家庭にある家電製品の種類も増えた現在、建物への落雷でこれらが破損する事態も増えています。基本的対策であるコンセント、ケーブルの取り外しや耐雷機器の設置等は、積極的対策として有効です。また、被害を受けた時の準備として、火災保険の特約等の落雷保障といったものもあります。

豪雨や竜巻などと複合的な災害につながる雷です。これから発生が増える季節ですから、日頃からの注意を心がけたいものです。